

臨床心理士・公認心理師試験対策授業見学

留学生教育センター 特任講師
修士（経済学） 松尾仁

臨床心理士・公認心理師試験対策授業にて、中島総長先生の経験談から学習に対する考え方を学んだ。中島総長先生の話は、心に残る名言が非常に多く、中島総長先生の言葉に基づいて感想を述べていきたい。

授業の開始前に中島総長先生はご自身の人生を語られた。中島総長先生の人生で大きな転換期があった。それは、フォーダム大学大学院進学である。中島総長先生といえどもフォーダム大学大学院での勉強は苦戦を強いられ、アメリカの大学院は1科目でもFが付いたら落第という大変厳しい状況におかれたとのことであった。そこで、中島総長先生は朝から晩まで必死になって勉強され、無事に大学院を修了されたという経験談であった。

このご経験から、あらゆる試験に対して、「必死になって暗記して、やるしかない。受かろうと思ったら朝から晩までやるしかない」、そして「家に帰って復習。確認テストで満点をとっても安心しない。問題集を何度も見る。完全に頭に残るまでやる。確実に受かる」と勉強に対する取り組み方をお教えくださった。

中島総長先生は、「伝統的に一般の日本人はどこかの大学に入ったかを考える」と日本社会の慣習に言及された。確かにその通りで日本は学歴社会であり、落ちこぼれた者は人生をあきらめざるを得ないのかもしれない。しかし、中島総長先生は、学生たちをあきらめさせず、「（東京福祉大学は）トップクラスの大学でも（公務員試験など）あまり受からない試験に合格させる。高校時代までは優秀でなくても東京福祉大学に入ったら合格できるようになる」と東京福祉大学には高い教育力があり、「東京福祉大学の4年間で賢い人間になる。人生を変えてもらいたい。一生懸命やれば変わる。生まれ変わる」と人生を再出発するよう激励してくださった。

やはり人は人生をあきらめきれないものである。そこで、「東京福祉大学は夢を売る。東京福祉大学は夢と希望。ここ（東京福祉大学）に来て賢い子になる」という中島総長先生のお考えは大変すばらしく、学校が存在する意義を述べてくださった。賢くなりたいから学校に入る。これは当然のことであるが、多くの学校はこれを忘れてしまっているようにも思える。中島総長先生は、この当然のことを示してくれた。

このような中島総長先生の言葉を聞いたためか、受講生たちはいつも以上にやる気に満ち溢れているようであった。なるほど、中島総長先生は学生たちのやる気を引き出すためにお話をしてくださったのだと確信できた。

私は、中島総長先生の考えを継承し、学生たちのやる気を引き出し、人生を変えさせていきたいと考えた。